

令和7年3月21日

白老町議会  
議長 小 西 秀 延 様

総務文教常任委員会  
委員長 貳 又 聖 規

### 所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

#### 記

- 1 調査事項 (1) 常任委員会  
アイヌ文化の継承と担い手対策について  
(2) 分科会  
公益財団法人アイヌ民族文化財団（ウポポイ職員）との懇談
- 2 調査の方法 (1) 常任委員会 事務調査・視察  
(2) 分科会 懇談
- 3 調査日程 (1) 常任委員会  
令和 6年 9月 20日（金）  
令和 6年 10月 1日（火）  
令和 6年 10月 4日（金）視察：平取町二風谷  
令和 6年 11月 5日（火）視察：釧路市阿寒町  
令和 6年 11月 6日（水）視察：白糠町  
令和 6年 12月 12日（木）  
令和 7年 3月 10日（月）  
(2) 分科会  
令和 7年 2月 6日（木）
- 4 出席委員  
委員長 貳 又 聖 規 副委員長 森 山 秀 晃

委員 長谷川 かおり 委員 佐藤 雄大  
委員 前田 博之 委員 広地 紀彰  
議長 小西 秀延

5 説明のために出席した者の職・氏名  
政策推進課長 太田 誠 アイヌ政策推進室長 鵜澤 友寿  
アイヌ政策推進室主任 大西 健太

6 分科会（懇談）への出席者  
公益財団法人アイヌ民族文化財団（ウポポイ職員）7名

7 職務のために出席した者の職・氏名  
事務局長 本間 弘樹 主 幹 小山内 恵  
一般事務職員 白綾 美紀

## 8 調査結果

本委員会は、アイヌ文化の継承と担い手対策の現状と課題について、担当課から説明を受け、経過、現状及び課題を把握し、所管事務調査並びに活動団体との懇談を終了したので、その内容を次のとおり報告する。

### （1）現状

#### ① 白老町アイヌ施策基本方針の概要

本町の中長期的な展望に立ったアイヌ施策の総合方針として、平成19年9月に白老町アイヌ施策基本方針を策定。その後、令和4年3月に改定を行い、基本方針にのっとったアイヌ政策を進めている。基本方針の目的は次のとおりである。

- ア) アイヌ民族としての誇りを高める
- イ) 全町民の正しい認識と理解の促進
- ウ) 多文化共生社会の実現
- エ) 地域の繁栄を推進するための文化保存・伝承・発展

#### ② イオル再生事業

- ア) 一般社団法人白老モシリを中心に、自然素材の育成を実施
- イ) 小中学生や地域住民向けの体験交流事業を展開

#### ③ 人材育成事業

- ア) 刺しゅう講座、木彫講座などの開講
- イ) アイヌ文化工芸品に携わる人材の育成

ウ) アイヌ語教室や古式舞踊の伝承活動の実施

④ 多文化共生の推進

ア) ウポポイを中心に道内外でPR活動を実施

イ) 白老アイヌ協会を通じた人材育成や商品開発

(2) 課題

① 歴史・文化の研究・保存・伝承の在り方

・次世代に継承するための体系的な記録と研究体制の整備が必要。

② 素材（原材料）の安定確保

・伝統工芸品に必要な自然素材の持続的な供給体制の確立。

③ 団体・機関間の連携強化

・アイヌ関係団体と行政・議会との有機的な連携が不十分。

④ 次世代の担い手育成

・高齢化に伴い、若年層の参加を促進する対策が急務。

⑤ 町内外への周知と理解促進

・アイヌ文化に対する正しい認識を広めるための広報活動が必要。

(3) 対策と今後の方向性

① 歴史・文化の保存・伝承の推進

・体系的な文化保存・研究体制を強化し、学術機関との連携を深め、専門的な研究を推進する。

② 次世代担い手の確保と育成

・学校教育へのアイヌ文化の導入を検討するとともに若年層向けの体験プログラムの充実を図る。

③ 素材の確保と産業振興

ア) イオル再生事業の拡充と自然素材の安定供給の確立。

イ) 地域資源を活用した商品開発の推進。

④ 関係団体との連携強化

・定期的な情報共有会議を開催し、施策の進捗確認を行い、町とアイヌ関係団体が一体となった推進体制を構築する。

⑤ 多文化共生の推進とPR活動の強化

ア) ウポポイを中心とした地域間交流の活性化。

イ) 白老町のブランドと観光資源としての魅力発信。

#### (4) 委員会の意見

令和6年に実施した視察（平取町二風谷、釧路市阿寒町、白糠町）と事務調査及び分科会を通じて、まとめた意見は次のとおりである。

##### ① 文化継承と担い手育成の仕組みづくり

###### ア) 進路確保とキャリア支援

・平取町二風谷での木彫り研修の事例に見られるように、受講後の進路を確保し、文化継承につなげる仕組みが有効であることが確認された。本町でも、ウポポイで育成された伝承者が地域で活動し続けられる支援策を構築し、研修生がキャリアとして確立できる仕組みを強化すべきである。

###### イ) 若手担い手の確保と人材育成

・阿寒や白糠の現状から、担い手不足が深刻化していることが浮き彫りになった。本町においても、若者が文化継承に関心を持ち、参入しやすい環境づくりが急務である。特に、ウポポイと連携したアイヌ語学習の機会の提供や、研修生や若手担い手向けの住宅支援や生活支援の充実が求められるとともに全国の大学生を対象としたワークショップの開催など、積極的な人材育成が求められる。

##### ② 観光振興と販路拡大の戦略強化

###### ア) 商品開発と観光プロモーションの推進

・平取町二風谷の「能作」や「ゴールデンカムイ」とのコラボレーションが示すように、伝統文化を現代のライフスタイルに合わせた商品開発は、観光振興に効果的である。本町においてもハワイやニュージーランドのように、町中の看板にアイヌ語表記を取り入れるなどアイヌ文化を日常生活に取り入れる視点を重視し、町内産品にアイヌ文化の要素を取り入れた商品開発や、SNSを活用したプロモーション戦略を強化することで、観光客の誘致と地域経済の活性化を図るべきである。

###### イ) 広域連携による観光資源の拡充

・阿寒並びに白糠との連携を進め「ユーカーラ街道構想」の実現を目指すことで、長期滞在型の観光促進につなげる。また、ウポポイを活用した国際文化交流イベントを企画・実施し、観光振興と文化普及を両立させることが重要である。

##### ③ 国際交流と教育プログラムの充実

###### ア) 国際交流事業の推進

- ・白糠町の国際交流の取組や、平取町二風谷でのニュージーランド・マオリ族との交流は、アイヌ文化への誇りと国際的視野を育む貴重な機会となっている。本町でも、国際交流を通じて若者の多様な価値観を育む教育プログラムを推進することが重要である。
- ・ウポポイと連携し、アイヌ語の普及促進や文化交流プログラムを強化することが重要である。

#### イ) 幼少期からの学習環境の整備

- ・アイヌ文化の継承を地域全体で推進するため、保育・幼児教育段階からの学習環境を整備することが求められる。言語や伝統文化に親しむ機会を提供することで、子供たちが自然とアイヌ語や文化に触れ、地域の文化的アイデンティティの涵養につなげることが重要である。

### (5) まとめ（提言）

今回の調査を通じて、白老町が直面する文化継承の担い手不足、観光振興の戦略強化及び国際交流を通じた地域の発展が、喫緊の課題であることが明らかになった。特に、ウポポイとの連携強化が不可欠であることから、ウポポイの理念と連携し、全国的なモデルケースとなるような教育プログラムの構築を目指すべきである。町が中心となり、関係機関や地域住民との連携を強化することで、以下の点を推進することを提言する。

#### ① 文化継承の担い手育成と地域に根差した活動支援の強化

ア) 若手担い手が文化活動をキャリアとして選択できる環境の整備

イ) 研修生向けの住宅支援・生活支援の充実

ウ) 教育機関との連携によるアイヌ語学習機会の拡充（放課後学習の提供、学校外での体験機会の創出）

エ) ウポポイで育成された伝承者が地域で活動し続けられる支援策の構築

#### ② 地域の魅力を高める観光資源開発と流通拡大

ア) アイヌ文化を日常生活に取り入れるための商品開発と情報発信の強化

イ) 広域連携を活用した観光ルートの構築と情報発信の強化

#### ③ 多文化共生と言語継承を支える国際交流・教育プログラムの推進

ア) ウポポイと連携した国際文化交流イベントの企画・実施

イ) 幼少期からの学習環境の整備

ウ) アイヌ語の普及と視認性向上

以上の提言をもとに、白老町の施策をより効果的に推進し、地域の発展と

文化の継承を両立させることを提言し、まとめとする。

(6) 総務文教分科会

総務文教分科会は、ウポポイとの懇談を実施した。なお、その内容については、別紙「活動報告書」のとおりである。

## 総務文教分科会の活動報告書

令和7年2月19日

総務文教常任委員会

委員長 貳又 聖規 様

総務文教分科会

主査 森山 秀晃

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名： 公益財団法人アイヌ民族文化財団（ウポポイ） （参加者7名）

日程・会場	令和7年2月6日 ウポポイ（民族共生象徴空間） 午後4時00分～午後5時30分
懇談テーマ	アイヌ文化の継承と担い手対策（伝承活動や担い手づくり等における本町の現状や課題、将来に向けた展望について）
出席委員名	主査 森山 秀晃 副主査 貳又 聖規 委員 長谷川 かおり 委員 佐藤 雄大 委員 前田 博之 委員 広地 紀彰
意見・要望事項	下記のとおり
活動報告 (処理・対応含)	<p>本懇談会は、「アイヌ文化の継承と担い手の育成」をテーマに掲げ、ウポポイにおいて伝承活動や人材育成の最前線で日々尽力されている7名の職員の方々に参加いただいた。議会として、こうした貴重な意見を町の施策に活かすべく、分科会において意見交換を行い、その内容を踏まえた上で、議員間討論を重ね、整理・集約したものを本報告書としてまとめたものである。</p> <p>○アイヌ文化の継承と担い手対策 (1) アイヌ文化を取り巻く現状 ①アイヌ文化への関心への高まり</p> <p>近年、アニメや漫画などの影響もあり、アイヌ文化に興味を持つ人が増えていると感じられる。また、ウポポイをはじめとする各種施策の影響により、国内外の関心が高まってきている。</p>

## ②アイヌ文化の担い手育成の取組

大学や専門学校では奨学金制度を活用しながら、アイヌ文化の担い手を育てる取組が進められている。ウポポイにおいても、アイヌ文化の継承を担う人材の育成に力を入れており、国内外への情報発信にも取り組んでいる。

## ③指導者のスキル向上と環境整備

アイヌ文化の伝承に携わる指導者自身も、より高度な知識やスキルを身に着ける必要がある。また、指導者の育成だけでなく、アイヌ文化を学ぶための環境整備も求められている。

## ④伝承活動の拡大と取組の広がり

様々な伝承活動を展開していきたいと考えられているが、国立の施設であるため、活動内容によっては一定の制約が生じる場合もある。

## (2) 白老町の施策における課題

### ①日常生活の中でのアイヌ文化との接点の拡大

アイヌ文化に触れる機会は増えているものの、日常生活や学校教育の中で継続的に学ぶ環境が十分に整っているとは言えない。町内の授業でムックリや古式舞踊を学ぶ機会はあるが、単発の取組にとどまっている。

### ②アイヌ語学習の機会と参加促進

アイヌ語講座は開催されているものの、町民の関心を高め、積極的に参加してもらうための工夫が必要である。学校の授業での導入が難しい場合、放課後の学習機会の提供など、新たな取組が求められる。

### ③子供たちが気軽に学べる環境づくり

ウポポイは中学生まで入場料が無料なので、町内の子供たちが気軽に訪れるよう、町として積極的な周知活動や学習機会の提供を通じ、子供たちが自発的に文化に触れられる仕組みが必要である。

### ④伝承者の育成と発信力の強化

文化の伝承を担う人材の育成には、指導者の能力向上が不可欠である。ウポポイでは担い手の育成が進められているが、それを町内や他地域へと広げるための仕組みが求められる。

### (3) 白老町の将来に向けた展望

#### ①言語復興の推進と日常化

言語復興を進めるためには、子供の頃からアイヌ語に触れ、日常的に使用する環境を整えることが重要である。フィンランドでは、先住民族の言語復興が進められ、サーミ語が自然に習得できる環境が整備されている。アイヌ語についても、日本語や英語とともに習得できる教育環境を整備することが理想的である。

#### ②保育・教育環境の整備

アイヌ文化を学べる環境を保育園等から整えることで、子供たちが自然とアイヌ語に親しむ機会を増やし、言語復興の土台を築くことができる。イマージョンスクールの導入など、幼少期からの学習環境を整えることで、ウポポイを有する町として、より主体的にアイヌ文化の継承に貢献できると考えられる。ウポポイの理念とも連携しながら、町全体でアイヌ文化の学びを深め、全国のモデルケースとなるような取組を進めていくことが求められる。

#### ③アイヌ語の普及と視認性向上

ウポポイ内では、アイヌ語の公用語化が進められているが、町内では目にする機会が少ない。ハワイやニュージーランドのように、町中の看板にアイヌ語表記を取り入れるなど、町として、ウポポイと連携した取組が求められる。

#### ④文化に触れる機会の提供と祭り・イベントの活用

町内の祭りやイベントの中でアイヌ文化に触れる機会を提供し、学びのきっかけを作ることが重要である。文化に触れる機会が増えることで、町民の関心を高め、継続的な文化継承につながると考えられる。